

敬老会 多様な開催方法に



対象が実質80才以上となつて3回目となる敬老事業、市の運営方針も一部改正され、時期を9月に限定せず、開催方法を多様化し、お祭り時に組合せる等地域のやり易い方法が可能となつた。但しこれで機会2回が1回に減つてしまつ欠点がある。山辺地区は対象者約2060名程であるが、顔合わせできる会食会形式は減少し、祝い品配布のみで済ます町内が増えていた。

小山市大谷地区社協へ 地区外バス研修実施



バス借用の地区外研修は令和元年度の「そなエリア東京」以来6年ぶり。但し今回は費用の掛からない市バス（距離・時間の制約はある）を利用。

外出困難者の送迎支援で知られる小山市大谷地区社協を訪問交流してその実情をお聞きし、応用点を模索した。

大谷地区は人口43千人、当地区の2倍強の規模。市民交流センター内に事務所を設け、有給



の職員1（2名交代で正規1）を常設しており、会長始め地区社協役員ボランティアは余裕をもつてしつかりとした活動ができている。当地区との最大の違いは市社協の補助金の他に、地区住民から地区社協会費徴収を行つていて資金潤沢なことだ。補助金だけでは活動を継続できなくなつた山辺地区社協としても考えるべき事項だろう。



講師の指導に子ども達は目を輝かせながら反応していく。覚えも速い

運転ボラ活動費500円／回。希望マッチングは事務所職員にて、大谷地区ならではの、行き届いた支援活動となつている。昼食はスイーツも食べ放題の「いちごの里」にて楽しみ、道の駅にも寄つて帰宅となつた。

児童が学んだ 身近な手話

夏休み地域教育の一つ

11月にデフリンピックが日本で初めて開催され、TV等で手話での応援に大いに盛り上つていましたね。

これに先駆け、8月19日地域

運転ボラ活動費500円／回。希望マッチングは事務所職員にて、大谷地区ならではの、行き届いた支援活動となつている。昼食はスイーツも食べ放題の「いちごの里」にて楽しみ、道の駅にも寄つて帰宅となつた。

福社教育の一環として主任児童委員が夏休み地域児童教育・手話教室を企画してくれた。講師には聴覚障がい者支援ボランティアとして市に登録している小林さん薄葉さん蛭田さん、横山さんの4名にお願いして、クイズ、ゲーム、演劇立てを含めて、楽しく学べる手話教室を開いてくれた。

支部登録・21町内に

昨年の点字、今年の手話と学童の日常には経験し難い世界に触ることで興味をもつて貰い、視野を広げて、共生社会構築の一翼を担つていってほしい。

当方も締めの挨拶に、覚えたてのありがとうの手話を入れた。

市社協の支部優先方針と地区内運営合理化を目的に、全町内の地区社協支部登録を進めてきたが、年度初めに4町内の申請により、21支部登録となつた。これで地区内活動としてはほぼ支部対応に集約できる。残る一町内（八幡3）は住民への福祉で取残されないように、早急な登録をお願いしたい。

